

箱根湿生花園の 花だより

2018年4月15日発行



ヒマラヤの青いケシ

今年は例年になく、足早に春の花が咲き出しています お目当ての花があれば早めにお越しください！
箱根湿生花園をよりお楽しみいただくために、今季から花だよりをリニューアル！園内の旬な情報を
いち早くお届けします。



Pick Up ニリンソウ キンボウゲ科



ニリンソウは北海道から九州の湿った山野に自生する多年草です。ふつう1本の茎に白花を2個咲かせることが多いので、ニリンソウと名が付きましたが、花を1個や3個付けることもあります。「二輪草があるなら、一輪草もあるの？」と聞かれそうですが、同じ仲間にイチリンソウ、サンリンソウがあります。また、ニリンソウの萼片は温度に敏感で、太陽の光を浴びると開きます。そのため、写真を撮りたい方は晴れている日に撮影してみてください。箱根湿生花園では、低層湿原や湿生林のエリアなど色々な場所で群生する姿を観察することができます。晴れている日だけ花開く、その清楚な白花をぜひお楽しみください！



アカボシシャクナゲ

「赤星石楠花」(ツツジ科)
台湾の高地原産の常緑小高木。

File 1 アカハライモリ (井守) 有尾目イモリ科イモリ属

アカハライモリは主に本州、四国、九州などの水田や池など流れのほとんどない淡水に生息している日本固有のイモリです。園内では流れが緩やかな浅い場所で見られますが、特に春は繁殖のために集まっているので観察しやすい季節です。成体はしばらくすると水面に空気を取り込みに来ます、その時赤い腹が見えますのでよく観察してみてください。同じ両生類であるサンショウウオと勘違いされますが生息環境や繁殖方法などが大きく異なり、似ているようで異なる生き物です。



Botanical Gallery



シラネアオイ
北海道～本州(中部以北)多雪地の山地に生える多年草。



ミツガシワ
北海道～九州の山地の湿地に自生。名前の由来は、カシワのような大きな葉が三枚つくことから。



オオバナノエンレイソウ
北海道～東北地方の湿った林内に群生する多年草。



エゾノリュウキンカ
北海道、本州(北部)の湿地や水辺などに生える多年草。こう名前の由来は、北海道に多く自生し、黄金色の花が立つように咲くことから。



オオバクスミレ
日本海側の山野に生える多年草。野生では、根茎を伸ばし、群生する。



ミツバツツジ
関東～近畿の太平洋側に分布し、尾根や岩場、雑木林などに生育する。おしべが5本であることが本種の特徴。



リュウキンカ「立金花」(キンボウゲ科)

本州の山地の湿地に生える多年草。名前の由来は、花茎が直立し黄金色の花を付けることから。

ご利用案内

通常営業 9:00～17:00 (最終入園 16:30)
大人(中学生以上) 700円 小人(小学生) 400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)“仙石案内所前”下車、徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>

箱根湿生花園の 花だより

2018年5月1日発行

クマガイソウ

「熊谷草」(ラン科)
北海道(西南部)~九州に分布し、山林、とくに杉林や竹林に生える多年草。名前の由来は、袋状の花を源平合戦の武将、熊谷直実の母衣(ほろ)に見立てたもの。



File2 シュレーゲルアオガエル 無尾目アオガエル科

4月から5月中旬の園内では、いたる所でコロコロと綺麗な鳴き声が聞こえてきます。声の主はシュレーゲルアオガエル。聞き慣れない名前ですが、日本固有種のカエルで、大きさは3~5cmとアマガエルより一回り大きいのが特徴です。繁殖期であるこの時期は、ほとんど地中にいるため、鳴き声を頼りに探してもなかなか姿は見る事ができません。産卵も主に地中で行い、200~300個の卵が入った白い泡状の卵塊を産み付けます。園内の自然を目だけでなく耳でも感じれば、カエルたちの大合唱が聞こえるはずですよ。



新緑が眩しいこの季節。今年は例年より早めにヒマラヤの青いケシが見頃を迎えています。咲き出したものから順次、展示してまいりますので、5月中旬頃までは、お楽しみいただける予定です。



サクラソウ



チョウジソウ

木道を歩けば、サクラソウやチョウジソウなどかわいらしい花々を観察できます。

Pick Up ヒマラヤの青いケシ ケシ科

ヒマラヤの青いケシが属するケシ科メコノプシス属の植物は、世界に60種以上が知られ、ネパール、ブータン、中国など、ヒマラヤ周辺のごく限られた地域を分布の中心としています。本来、標高3000m~5000mの高標高域に自生するため、夏の気温が高い低地での栽培が困難なことと、花色が美しいことから「天上の妖精」、「幻の花」と呼ばれ人々を魅了してきました。現在、箱根湿生花園では美しく咲き誇る青いケシを展示しています。大人気のお花で会場には人だかりができるほどです。開花調整を行い、開花した株から順に展示していくため、5月中旬頃までは満開の青いケシを楽しめそうです。一度見たら忘れられない、ヒマラヤンブルーのお花。ぜひご堪能ください!



Botanical Gallery



コマクサ

北海道~本州(中部以北)の高山帯の砂礫地に生える多年草。「高山植物の女王」と呼ばれる。



クロユリ

北海道~本州(中部以北)の高山帯の砂礫地に生える多年草。花からは独特な臭いがする。



ミヤマオダマキ

北海道~本州(中部以北)の高山帯の砂礫地や乾いた草地に生える多年草。



クサタチバナ

本州(関東地方以西)から四国の山地に生える多年草。名前の由来は、花がミカン科のタチバナに似ていることから。



ヒトリシズカ

北海道~九州の山野の林内や草地に生える多年草。名前は花を源義経の愛妾静御前の舞姿にたとえたもの。



クリンソウ

北海道~四国の山地の湿った場所に生える多年草。名前は花の咲く姿を仏塔の「九輪」に似ていることから。



キバナクリンソウ「黄花九輪草」(サクラソウ科)
ミャンマー~中国原産の多年草。黄色の花を段輪状に多数付ける。



エビネ

「海老根」(ラン科)
北海道(西南部)~沖縄に分布し、落葉広葉樹林内に生える多年草。名前の由来は、地中にある偽鱗茎の様子が海老の尾に似ているため。唇弁の色は変化が多い。

ご利用案内

通常営業 9:00~17:00(最終入園 16:30)
大人(中学生以上)700円 小人(小学生)400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)「仙石案内所前」下車、徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>

箱根湿生花園の

花だより

ヒメサユリ

「姫小百合」(ユリ科)
本州(山形県、福島県、新潟県)の山地の草地に生える多年草。名前の由来は小型でサユリ(ササユリ)に似ていることから。日本固有種。



Pick Up トビシマカンゾウ 「飛島萱草」(ユリ科)

トビシマカンゾウは飛島(山形県)、佐渡島(新潟県)の海岸に生える多年草です。橙黄色～濃黄色の花を15～30個付け、下にあるものから順に咲いていきます。ニッコウキスゲによく似ていますが、全体に大型で、花数が多いことが特徴です。トビシマカンゾウはヘメロカリス(*Hemerocallis*)属に属します。ヘメロカリスはギリシア語で「一日の美しさ」という意味があり、花が咲いた次の日にはしぼんでしまう一日花であることに由来します。また、ヘメロカリス属の花は大変美しいことから、野生種をもとに2万品種以上の園芸品種が作出されました。箱根湿生花園では、ヌマガヤ草原区でトビシマカンゾウを観察することができます。

トビシマカンゾウやハマナスなどの花が次々と咲き始め、園内がカラフルになっています!新緑に映える、美しい日本の植物をお楽しみください。

File3 コマルハナバチ ハチ目(膜翅目)ミツバチ科

5～6月にかけて、ハマナスなどの花を観察していると、コマルハナバチがせわしなく花粉を集めている姿を見かけます。目を引くフサフサした黒い体毛で餌である花粉を効率良く集め、後ろ脚に花粉団子を作ります。マルハナバチの仲間は花粉を全身につけた状態で花の上を動きまわるため、植物にとっては受粉効率が良く、子孫を残す上でとても重要な昆虫といえます。性格は非常におとなしく、手でつかんだり強く刺激しない限り刺してくることはほとんどありません。



ニッコウキスゲ



カキツバタ

園内では、たくさんの可愛らしい花々が咲きはじまりました。ヌマガヤ草原区では、ニッコウキスゲやレンゲツツジなどを観察できます。



カザグルマ

「風車」(キンポウゲ科)
本州～九州の林縁などに生えるつる性の低木。白色～淡紫色の花を上向きにつける。名前の由来は花の形がおもちゃの風車に似ていることから。

Botanical Gallery



アヤメ

本州～九州のやや乾いた草地に生える多年草。花に黄色の網状の模様がある。



アサザ

本州～九州の池や沼などに生える多年生の水草。若葉は食用になる。



クロユリ

北海道～本州(中部地方以北)の高山帯の砂礫地に生える多年草。花は下向きに咲く。



クサタチバナ

本州(関東地方以西)～四国の山地に生える多年草。名前の由来は、花がミカン科のタチバナに似ていることから。



イブキトラノオ

北海道～九州の山地から高山の日当たりのよいところに群生する多年草。名前の由来は伊吹山に咲いていたことから。



ハマナス

北海道～本州(茨城県、島根県)の海岸の砂地に生える落葉低木。名前の由来は果実をナシにたとえた「浜梨」がなまったことから。



チョウジソウ「丁字草」(キョウチクトウ科)

本州～九州の川のそばなどのやや湿った草地に生える多年草。名前の由来は花がフトモモ科のチョウジの花に似ていることから。

ご利用案内

通常営業 9:00～17:00(最終入園16:30)
大人(中学生以上)700円 小人(小学生)400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)“仙石案内所前”下車、徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>

外国の山草と園芸種のエリアではエーデルワイスをはじめとするさまざまな外国の植物を見ることができます。



エーデルワイス

箱根湿生花園の 花だより

2018年6月1日発行

過ごしやすい天気が続き、園内の緑もいっそう深まってきました。梅雨入りも間近ですが、うっとりとした気分を晴らしてくれるような清楚な花々が咲き始めています。



Pick Up ハマナス 「浜梨」バラ科

ハマナスは北海道、本州（太平洋側では茨城県以北、日本海側では島根県以北）の海岸砂地に生える落葉低木です。5月下旬になると、枝先に直径5～8㍉の紅紫色の花を1～3個つけます。花には芳香があり、香水の原料に使われています。また、ハマナスは強健で耐寒性に優れていることから、園芸バラの作出に非常に重要な役割を果たしました。ハマナスの交配系統はハイブリッド・ルゴーサ系統と呼ばれドイツやオランダなど寒い地域の交差点や街路によく植栽されています。ハマナスは花だけでなく、果実も楽しめる植物で、秋には真っ赤な実をたわわに付けひと際目を引きまします。この実はビタミンCが豊富で、生食やジャムとして利用されています。



イワギリソウ

「岩桐草」(イワタバコ科)

本州(近畿地方以西)～九州の溪谷の岩壁に生える多年草。名前の由来は、花や葉がキリに似て、岩上に生えることから。



ヤマボウシ 「山法師」(ミズキ科)

本州～九州の山地の林内や草原に生える落葉高木。箱根には大木が多く、ヤマボウシの名所として知られている。

File 4 ハンノキハムシ コウチュウ目ハムシ科

仙石原周辺では湿原を好むハンノキが多く自生しています。園内でハンノキを見つけたら、ハンノキハムシを探してみましよう。体長は6～7mmほどで小さいですが、身体全体がメタリックブルーに輝いているので大変目立ちます。葉を主食とするハムシという虫の仲間、本種はその名の通り幼虫期も成虫期もハンノキを食べて暮らしています。ひっそりと暮らす湿原の小さな宝石たちを見つけてみてください。



Botanical Gallery



エゾキスゲ

北海道、南千島の砂丘や海岸の草地に生える多年草。花は夕方開き、翌日の午後まで咲く。



センジュガンピ

本州(中部以北)の山地に生える多年草。名前の由来は、花が中国産のガンピに似て、日光の千手ガ浜で発見されたことから。



ウツギ

北海道～九州の山野に生える落葉低木。名前の由来は、卯月(旧暦の4月)に花が咲くことから。



オカタツナミソウ

本州～四国の丘陵の林縁に生える多年草。名前の由来は、花を波頭にたとえ、丘に生えることから。



シナノナデシコ

本州(中部地方)の山地の河原や荒地に生える多年草。花びらの縁には、細かなキザミがある。



フナバラソウ

北海道～九州の山地の草原に生える多年草。名前の由来は、袋果の形が舟腹に似ることから。



ススキ草原区では、明るく草丈の低い草地を好む小型の植物を育成するため、当園職員が手作業で草刈りをしています。現在、明るい草原を好むフナバラソウやクサタチバナなど可愛い花々を見ることができます。また、カンボクやウツギなどの低木も咲いています。

ご利用案内

通常営業 9:00～17:00(最終入園 16:30)
大人(中学生以上) 700円 小人(小学生) 400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)“仙石案内所前”下車、徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>

ヒメユリ

「姫百合」(ユリ科)

本州(東北地方南部以南)~九州の山地にまれに生える多年草。花は朱赤色で、上向きに咲く。



箱根湿生花園の

花だより

2018年6月15日 発行

梅雨に入り、箱根仙石原も雨の降る日が多くなってきました。園内では、ノハナショウブやハンカイソウなどの植物が、雨にも負けず、凛と咲いています。雨に濡れながらも美しく咲き誇る花々をお楽しみください。



Pick Up ノハナショウブ「野花菖蒲」アヤメ科

ノハナショウブは、北海道~九州の湿り気のある草地に生える多年草です。アヤメやカキツバタに似ていますが、ノハナショウブは花びらの中心に無地の黄色い筋が入り、葉の中心を通る主脈が太く角ばって目立つことが特徴です。また、生育環境も他の2種とは異なります。

かつて仙石原に多く自生していたノハナショウブも今では丈の高いヨシやススキの陰に隠れ、数が少なくなっています。箱根湿生花園の植生復元区では、草丈の低い明るい草原の中で咲く、かつての景観を再現しようと火入れや草刈り等の取り組みが行なわれています。



ケイワタバコ

「毛岩煙草」(イワタバコ科)

本州(関東~近畿)の日陰の岩壁などに生える多年草。イワタバコと異なり、花茎や萼、葉の表面などに軟毛多いのが特徴。

ハナショウブ「花菖蒲」(アヤメ科)

ノハナショウブを改良してつくられた園芸品種。梅雨に豪華な花をたくさん咲かせる。



File 5 ゲンジボタル コウチュウ目ホタル科

園内の流れの緩やかな水辺にはゲンジボタルが生息しています。夜に光る姿は幻想的であまりにも有名ですが、ホタルは成虫になると水しか飲まなくなり、幼虫期に蓄えた栄養のみで活動することはあまり知られていません。成虫の寿命は10日ほど。限られた命を子孫を残すためだけに使います。優雅に飛んでいるように見えるホタルたちですが、昼間はほとんど活動せず葉の裏などでじっとしています。もし園内で見つけても無理に光らせたりさせないで、静かに見守ってあげてください。



Botanical Gallery



タカネビランジ

本州(南アルプス)の高山帯の岩場に生える多年草。淡紅色の小花が次々と咲く。



カキラン

北海道~九州の日当たりの良い湿地に生える多年草。名前の由来は花が柿色をしていることから。



クサフジ

北海道~九州の山野の日当たりの良い草地や林縁に生えるつる性の多年草。名前の由来は花や葉が藤に似ているため。



オオバギボウシ

北海道~九州の山地の湿った林内や草原に生える多年草。若芽はウルイと呼ばれ、山菜として食べられる。



タマガワホトトギス

本州~九州の山地の谷沿いに生える多年草。名前は花色がヤマブキ似て、ヤマブキの名所京都の玉川に名を借りたもの。



エゾミソハギ

北海道~九州の湿地に生える多年草。ミソハギに似ているが、全体に毛があり、葉の基部は茎を抱く。



ハンカイソウ「樊噲草」(キク科)

本州(静岡県以西)~九州に生える多年草。名前の由来は、豪壮な草姿を中国漢代の武将、樊噲にたとえたもの。6月15日現在、湿生林区で見頃を迎えています。

ご利用案内

通常営業 9:00~17:00(最終入園16:30)
大人(中学生以上)700円 小人(小学生)400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)“仙石案内所前”下車。徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>

クガイソウ
「九蓋草」(ゴマノハグサ科)
本州の山地の日当たりの
良い草地に生える多年草。
名前の由来は輪生する葉
が層をなして茎につくこ
とから。



箱根湿生花園の 花だより

2018年7月1日 発行

早くも関東の梅雨明けが宣言されましたが、箱根仙石原では雨や霧の日が多く、太陽がなかなか顔をのぞかせてくれませんが、それでも花たちが夏の気配を感じ、着々と花開き始めています。緑と雨の競演をもう少しだけお楽しみください。



深い霧に包まれた植生復元区、晴れとは違う幻想的な雰囲気は筆者のオススメ!!



Pick Up ミズチドリ「水千鳥」ラン科

ミズチドリは、北海道～九州の日当たりの良い水湿地に生える多年草です。6月末～7月にかけて穂状に白色の花をつけます。名前の由来は水湿地に生え、チドリのような花をつけることから。花に芳香があり、別名ジャコウチドリ(麝香千鳥)とも呼ばれています。

ミズチドリは、仙石原湿原を彩る代表的な湿原植物の1つであり、箱根湿生花園では、植生復元区の木道近くで観察することができます。植生復元区では、ミズチドリのほかにもカセンソウやオカトラノオ、クサレダマなどの美しい植物が咲き始めています。



カセンソウ

「歌仙草」(キク科)

北海道～九州の日当たりの良い山野の湿地に生える多年草。地下茎を長くのばしてふえ、群生する。



File 6 スジグロボタル コウチュウ目ホタル科

前号では有名なゲンジボタルを紹介しましたが、今回はあまり知られていない湿原を生活圏とするスジグロボタルを紹介します。スジグロボタルは、昼間に活動する昼行性ボタルの一種です。ほとんど発光せず繁殖行動には光ではなくフェロモンを使っていると考えられています。幼虫の分布は湿地周辺に限られるため、神奈川県レッドデータリストでも準絶滅危惧種に指定されている貴重な昆虫です。仙石原湿原はスジグロボタルにとって理想的な環境が整っており、園内でも比較的安定して観察する事ができます。



Botanical Gallery



クサレダマ

北海道～九州の山地の湿地に生える多年草。名前の由来はマメ科のレダマに似ていることから。



カライトソウ

本州(中部地方)の高山帯に生える多年草。名前の由来は花を唐から来た唐糸に見立てたことから。



マツモトセンノウ

九州の山地のススキ草原などに生える多年草。名前の由来は花の形が歌舞伎役者の松本幸四郎の紋に似ていることから。



ノリウツギ

北海道～九州の草原の低木林や林縁などに生える落葉低木。名前の由来は和紙を漉くときの糊料に用いたことから。



オオバギボウシ

北海道～九州の山地の湿った林内や草原に生える多年草。ギボウシの由来は若いつぼみの集まりが橋の欄干につける擬宝珠に似ていることから。



オオバジャノヒゲ

本州～九州の林内に群生する多年草。花は淡紫色または白色。種子は灰緑黒色。



オカトラノオ「丘虎の尾」(サクラソウ科)

北海道～九州の丘陵の日当たりの良い草地などに生える多年草。花序の上部は垂れ、花は下から咲き上がる。

ご利用案内

通常営業 9:00～17:00 (最終入園 16:30)
大人(中学生以上) 700円 小人(小学生) 400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)“仙石案内所前”下車、徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>

キキョウ
「桔梗」(キキョウ科)

北海道～九州の日当たりの
良い草地に生える多年草。
秋の七草に登場する「朝顔
の花」は本種ではないかと
いわれている。



箱根湿生花園の 花だより

2018年7月15日 発行

標高約 650m の仙石原でも汗ばむ陽気が続くようになってきました。しかし、園内では吹き抜ける風に高原の爽やかさを感じられます。木道を歩くと、仙石原湿原の夏を彩るカセンソウやコオニユリなどの可憐な花が咲き誇っています。特設会場では、7月21日から「世界の食虫植物展」を開催しています。



子供たちにも人気のハエトリグサやウツボカラなどの食虫植物を約 100 種 700 点を展示しています。開催期間は9月9日までで、期間中にはミニ教室・即売会を開催します。この機会に食虫植物を学び、育ててみませんか？
ミニ教室 日時：8/18 (土)～8/24 (金) 13:30～ 約30分間
即売会 日時：8/25 (土)、8/26 (日) 9:00～17:00



Pick Up ヤマユリ 「山百合」 ユリ科

ヤマユリは近畿地方以北の山地や丘陵に生える多年草です。花は野生種のユリの中で最も大きく、強い芳香を漂せながら咲きます。花被片は白色で、赤褐色の斑点があり、中脈には黄色のすじが入ります。自家受粉でよく結実しますが、種子から花が咲くまで4～5年かかるといわれています。球根は大きく苦味が少ないため、古くから食用として利用されてきました。

神奈川県においては、箱根や丹沢、三浦半島などで多く自生しています。昭和26年には「県の花」に制定されました。7月15日現在、園内のヤマユリはほとんどが蕾の状態ですがおそらく5日後くらいには一番花が楽しめるそうです(左の写真は昨年7月下旬に撮影したものです)。



フシグロセンノウ 「節黒仙翁」(ナデシコ科)

本州～九州の山地に生える多年草。
名前の由来は、節の一部が紫黒色を帯びることから。

File 7 ミドリシジミ 鱗翅目 シジミチョウ科

輝く緑色の翅が人気のミドリシジミのご紹介です。幼虫は湿地に生えるハンノキを主に食草にしていることから、ハンノキ林を生息地にしています。オスは夕方になると活動し、他のオスと出会うと「卍巴飛翔」と呼ばれるデトリリーの奪い合いが始まります。園内の高層湿原区などで、この飛翔を観察することができます。お互いくると回りながら飛ぶ姿は大変美しく、迫力があります。また、湿生花園に隣接する仙石原湿原では、ハンノキ林が保全されており、神奈川県下でも貴重な生息地になっています。



Botanical Gallery



コオニユリ

北海道～九州の山地草原に生える多年草。オニユリと異なり、むかごがつかず、花が小型なのが特徴。



エゾリンドウ

北海道～本州(中部地方以北)の深山の湿地帯などに生える多年草。花数が多く茎が太いため、切り花用に栽培される。



ソバナ

本州～九州の山地の草原や林縁に生える多年草。若い葉や茎は、山菜として利用される。



ナガボシロワレモコウ

北海道～九州(東北地方、関東地方)の湿った草地に生える多年草。花は花弁がなく、上から咲き進む。



チダケサシ

本州～九州の山野のやや湿った場所に生える多年草。園内各所にあり、淡紅色の小花を多数つける。



ジャコウソウ

北海道～九州の山地の谷間の湿り気のある場所に生える多年草。名前の由来は、茎葉をゆすと麝香の香りがするというところから。



カセンソウ「歌仙草」(キク科)

北海道～九州の日当たりの良い山野の湿地に生える多年草。仙石原湿原植生復元区ではカセンソウの群生を観察できます。

ご利用案内

通常営業 9:00～17:00 (最終入園 16:30)
大人(中学生以上) 700円 小人(小学生) 400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)“仙石案内所前”下車、徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>

コオニユリ
「小鬼百合」(ユリ科)
北海道～九州の山地の
草原に生える多年草。
地下の球根は食べるこ
とができる。



箱根湿生花園の 花だより

2018年8月1日 発行

夏休みに入りました。各地で猛暑日が続いており、外出するのも億劫ですが、標高約650mの仙石原では吹き抜ける風に爽やかさを感じることができます。箱根湿生花園では、カワラナデシコやコオニユリなど美しい夏の花々が見頃です。「世界の食虫植物展」も開催中！詳細は右上をご確認ください。



「世界の食虫植物展」開催中です。ハエトリグサやウツボカズラなど食虫植物、約100種700点を展示しています。開催期間は9月9日まで期間中には食虫植物ミニ教室・展示即売イベントを開催します。

食虫植物ミニ教室 日時：8/18(土)～8/24(金)
13:30～約30分間

展示即売イベント 日時：8/25(土)、8/26(日)



Pick Up カワラナデシコ 「河原撫子」ナデシコ科

カワラナデシコは、本州～九州の日当たりの良い草原、河原などに生える多年草です。7月～8月頃、淡紅色の美しい花を咲かせます。花弁が細かく糸状に裂けているのが特徴です。別名「ナデシコ」とも呼ばれており、名は万葉集にも出てきています。可憐な花を子を撫でるようにかわいがりたいということからこの名がつけられたといわれています。

箱根湿生花園では、園内各所で見るすることができます。特にススキ草原区や道端などでは、背丈の低い草原で他の植物に寄りかかるように咲いています。古来から日本人に親しまれてきた美しい花をぜひお楽しみください。



サワギキョウ 「沢桔梗」(キキョウ科)

北海道～九州の山野の湿地に生える多年草。箱根湿生花園に隣接している仙石原湿原にも自生している。

File 8 オオルリハムシ 甲虫目 ハムシ科

今回は「湿原の宝石」と呼ばれるオオルリハムシのご紹介です。オオルリハムシは赤や青などキラキラと輝く体色を持つ、ハムシの仲間です。体長は11～15mmで、ハムシの仲間の中では大型です。食草はシロネやヒメシロネなどのシソ科の湿生植物です。そのため、神奈川県内では湿原のある箱根仙石原が唯一の生息地となっています。箱根湿生花園では仙石原湿原区などで観察することができます。自然度の高い湿原環境の指標種にもなっているオオルリハムシ。ぜひ観察してみてください！



Botanical Gallery



キレンゲショウマ
本州(紀伊半島)～九州の深山の林内にまれに生える多年草。絶滅危惧種に指定されている。



ハコネギク
本州(関東・中部地方)の風当たりの強い草原や岩場に生える多年草。総苞は触ると粘るのが特徴。



シラヒゲソウ
本州～九州の山地の谷沿いの湿地に生える多年草。名前の由来は、細く切れ込んだ花弁を白いひげにたとえたことから。



ミソハギ
北海道～九州の山野の湿地に生える多年草。エゾミソハギと似ているが、葉の基部は茎を抱かないのが特徴。



フシグロセンノウ
本州～九州の山地に生える多年草。センノウの仲間によく似たものが多いが、朱赤色の花弁に切れ込みがないのが本種の特徴。



ヤマハハコ
北海道～本州(長野県・石川県以北)の日当たりの良い山地の草地に生える多年草。白い花びらのように見えるものは総苞片。



涼しい風を全身で感じる事ができる仙石原湿原植生復元区。天気がいいと、台ヶ岳やそのふもとにある仙石原すすき草原を眺めることができます。

ご利用案内

通常営業 9:00～17:00(最終入園16:30)
大人(中学生以上)700円 小人(小学生)400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)“仙石案内所前”下車、徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>

ミズトンボ
「水蜻蛉」(ラン科)

北海道～九州の日当たりのよい湿地に生える多年草。名前の由来は花の形がトンボに似ることから。神奈川県内では箱根仙石原のみに自生する。



箱根湿生花園の花だより

2018年8月15日 発行

お子様連れのお客様が多く、園内が賑やかな雰囲気になっています。まだまだ暑い日が続きそうですが、ススキ草原区ではオミナエシやヤマハギなどの秋の七草が風に揺れ始めてきました。

園内特設会場では「世界の食虫植物展」を開催中！8/25(土)、8/26(日)に開かれる展示即売イベントは、珍しい食虫植物を入手するチャンスですので、こちらもお見逃しなく！！



「世界の食虫植物展」開催中！

ハエトリグサやウツボカズラなどの食虫植物を約100種700点、展示しています。開催期間は9月9日まで。期間中には食虫植物ミニ教室・展示即売イベントを開催します。

食虫植物ミニ教室 日時：8/18(土)～8/24(金) 13:30～約30分間

展示即売イベント 日時：8/25(土)、8/26(日)



Pick Up レンゲショウマ 「蓮華升麻」キンポウゲ科

レンゲショウマは本州(福島県～奈良県)の山地の落葉広葉樹林内に生える多年草です。名前の由来は、下向きに咲かせる花がハスを連想させ、葉がサラシナショウマに似ていることから付けられました。7～8月になると、かわいらしい球状の蕾から、淡紅紫色のシャンデリアのような花を咲かせます。1属1種の日本特産種で、その美しさから「森の妖精」と称され、夏の花の中でも人気のある植物のひとつです。

8月15日現在、箱根湿生花園のレンゲショウマはたくさんの蕾を付けており、これからが見頃となります。連日猛暑が続いていますが、林の中で涼しげな花を観察してみたいはいかがでしょうか。



ムラサキミミカキグサ
「紫耳搔草」(タヌキモ科)
北海道～九州(屋久島まで)の湿地に生える食虫植物。地下茎に付いた捕虫囊で微生物を捕らえる。



File 9 ハラビロトンボ 蜻蛉目 トンボ科

箱根湿生花園では、この時期、様々なトンボを見ることができます。その中でも今回は少し変わった形をしたハラビロトンボについて紹介します。ハラビロトンボは、北海道～九州まで広く分布するトンボで、草丈が低く明るい草地に生息します。腹部が他のトンボと比べ顕著に短く幅広なのが特徴です。雄は成熟するとシオカラトンボと似たような体色に変化しますが、草などに止まっている状態を観察すればすぐに見分けの事ができます。植生復元区で縄張りを主張していることが多いので是非探してみてください。



Botanical Gallery



サギソウ

本州～九州の山野の日当たりのよい湿原に生える多年草。名前の由来はシラサギが翼を広げたような形の花が咲くことから。



ワレモコウ

北海道～九州の山野の日当たりのよい草地に生える多年草。花は暗赤紫色で、穂の先端から開花する。



オミナエシ

日本全土の日当たりのよい山野の草地に生える多年草。秋の七草のひとつ。「万葉集」などで詠まれている。



キレンゲショウマ

本州(紀伊半島)～九州の深山の林内にまれに生える多年草。名前の由来はレンゲショウマに似ていて、花が黄色ということから。



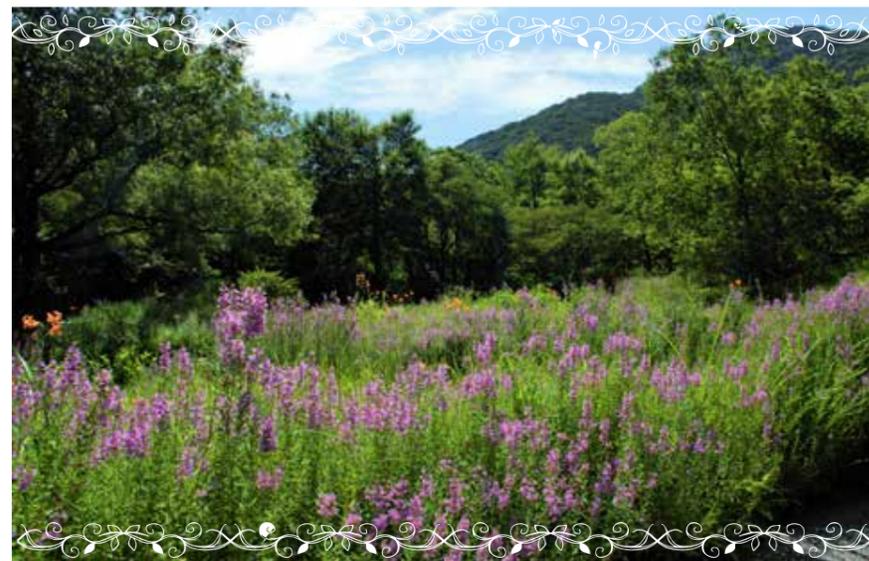
ツリガネニンジン

北海道～九州の山野に生える多年草。鐘形の花を輪生して付ける。若芽は「ととぎ」と呼ばれ、山菜として食べられる。



コバギボウシ

北海道～九州の山野の日当たりのよい湿地や林内の湿地に生える多年草。名前の由来は葉が小型のギボウシという意味。



ミソハギ 「禊萩」(ミソハギ科)

北海道～九州の山野の湿地に生える多年草。お墓や仏前にお供えする花としてよく使われ、別名はボンバナ(盆花)。ミソハギが群生している場所は、赤紫色に染められています。

ご利用案内

通常営業 9:00～17:00(最終入園16:30)
大人(中学生以上)700円 小人(小学生)400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)“仙石案内所前”下車、徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>

箱根湿生花園の 花だより

2018年9月1日 発行



『仙石原すすき祭り 2018』のお知らせ

箱根湿生花園を会場に、仙石原すすき祭りが開催されます。
 ・旅館やホテルのワンコイングルメ ・芸者BAR
 ・箱根湿生花園のライトアップ ・花火 1000 発
 などイベント盛りだくさん！皆様お誘いのうえ、ぜひお越しください。
 日時：9/24（月・祝） 15：00～20：00
 場所：箱根湿生花園 第1駐車場

キレンゲショウマ
 「黄蓮華升麻」(ユキノシタ科)
 本州(紀伊半島)～九州の深山の林内にまれに生える多年草。黄色の筒状花を横向きに咲かせる。名前の由来はレンゲショウマに似て、花が黄色ということから。



各地で厳しい残暑が続いているようですが、箱根仙石原では朝晩は涼しくなり、過ごしやすくなってきました。園内ではワレモコウやオミナエシなどの初秋の花が見頃を迎えています。ゆっくり木道を歩きながら、秋の訪れを感じてみてはいかがでしょうか？また、9/24（月・祝）の秋分の日には、箱根湿生花園を会場に「仙石原すすき祭り 2018」も開催されます！



Pick Up ワレモコウ 「吾木香」 バラ科

ワレモコウは、北海道～九州の山野の日当たりのよい草地に生える多年草です。8月～10月頃に暗赤紫色の花を上から下へと咲かせます。一つ一つの花に花びらは無く、花びらに見えるものはガクです。名前の由来は諸説ありますが、「吾木香」は日本の木香の意味で、根がインド北部原産の木香に似ているからといわれています。乾燥した根茎は地榆と呼ばれ、止血剤として古くから使われてきました。学名「*Sanguisorba officinalis*」は血を止める薬草の意味です。別名は「ダンゴバナ」と呼ばれ、お月見には欠かせません。
 箱根湿生花園では、ススキ草原区や植生復元区などで観察することができます。風に揺れる草姿に趣を感じさせるワレモコウをぜひお楽しみください。



スズムシバナ
 「鈴虫花」(キツネノゴマ科)
 本州(近畿地方以西)～九州の山地の木陰に生える多年草。低層湿原区で淡紫色や白色の花をたくさん咲かせています。

(2018年8月30日現在)



File 10 イチモンジセセリ 鱗翅目 セセリチョウ科

花を見ていると花粉や蜜を求めさまざまな昆虫が訪れます。今回はこの時期、多くの花に群がる様子を観察できるイチモンジセセリをご紹介します。イチモンジセセリは翅の色も地味で素早く飛ぶため、一見すると「ガ」の仲間に見えてしまいがちですが、れっきとしたチョウの仲間です。幼虫はススキなどのイネ科植物を食草とし、草原で生活します。似た種類でオオチャバネセセリなど様々な種がありますが、本種は名前の由来にもなっている後翅の4つの白い斑点が一直線になっていることで識別できます。花に止まっている時は警戒心が薄いので、ぜひ間近で観察してみてください。



Botanical Gallery



アサマフウロ
 本州(中部地方)の湿った草地に生える多年草。名前の由来は、浅間高原周辺に多いことから。



サワヒヨドリ
 日本全土の山野の日当たりのよい湿地に生える多年草。フジバカマと同じ仲間、園内各所で観察することができる。



サワシロギク
 北海道～九州の日当たりのよい湿地に生える多年草。舌状花ははじめは白色だが、しだいに紅紫色を帯びる。



マツムシソウ
 北海道～九州の山地の草原に生える越年草。名前の由来は諸説あるが、マツムシが鳴くころに開花するからともいわれる。



ホソバシロソウ
 本州～九州の山地の林内に生える多年草。名前の由来は、葉のつけ根にシロ状の毛があり、シロソウよりも葉の幅が細いことから。



タムラソウ
 本州～九州の山地の草原などに生える多年草。アザミの花に似ているが、アザミ属ではないため、刺はない。



オミナエシ 「女郎花」(オミナエシ科)
 日本全土の日当たりのよい山野の草地に生える多年草。秋の七草のひとつ。「万葉集」などで詠まれており、初秋の箱根湿生花園を彩る花のひとつ。

ご利用案内

通常営業 9：00～17：00(最終入園 16：30)
 大人(中学生以上) 700円 小人(小学生) 400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)“仙石案内所前”下車、徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>

箱根湿生花園の 花だより

2018年9月15日 発行

ミヤコアザミ 「都薊」(キク科)

本州(福島県以南)四国(高知県)~九州の山地の草原に生える多年草。名前の由来は、アザミに似た花が小さく可愛らしいため、都人にたとえたことから。



仙石原すすき草原のススキの穂も出揃うようになり、秋の風情が感じられるようになってきました。園内では、人気の高いアケボノソウやキレンゲショウマなどが見頃を迎えています。徐々に深まる秋を箱根湿生花園でぜひお楽しみください。また、9/24(月)の秋分の日には、箱根湿生花園第一駐車場を会場に「仙石原すすき祭り2018」も開催されます！



『仙石原すすき祭り2018』のお知らせ

箱根湿生花園 第一駐車場を会場に、仙石原すすき祭りが開催されます。
 ・旅館やホテルのワンコイングルメ ・芸者BAR ・ライブステージ
 ・箱根湿生花園のライトアップ ・花火 1000 発
 などイベント盛りだくさん！皆様お誘いあわせのうえ、ぜひお越しください。
 日時：9/24(月・祝) 15:00~20:00 場所：箱根湿生花園 第一駐車場



Pick Up アケボノソウ 「曙草」リンドウ科

アケボノソウは北海道~九州の山地の水辺に生える越年草です。茎頂で枝を分け、9~10月頃に清楚な白花を咲かせます。花をよく見ると裂片の端に黒紫色の斑点があるのが分かります。和名の由来は、この斑点を夜明けの空に見立てたことから付けられました。また、黄緑色の2点は「蜜腺溝」と呼ばれる蜜を分泌する場所で、アリなどの昆虫がよくきています。この特徴は、アケボノソウの学名(Swertia bimaculata)にも表されており、種小名(種形容語)は「2つの斑点」という意味です。

箱根湿生花園では園内各所で観察することができますが、木道の近くで多くの個体を観察できる植生復元区がおすすめです。小さな花をのぞきこんで、広大な夜明けの空に思いをはせてみてはいかがでしょうか？



サクラタデ 「桜蓼」(タデ科)

本州~沖縄の水辺や湿地に生える多年草。地下茎を横にのばしてふえる。名前の由来は花の色がサクラに似ていることから。



File 11 コアオハナムグリ 甲虫目 コガネムシ科

今回はこの時期アザミなどの花でよく見かけるコアオハナムグリを紹介いたします。ハナムグリは花粉や花の蜜、樹液を主食とする甲虫です。花の中に頭をもぐり込ませて食べている様子からハナムグリ(花潜り)と名付けられました。コアオハナムグリは体長10~14mm程度とハナムグリの中でも小型の種類で、他種とは細かい毛が背中全体に生えていることで見分けることができます。花にもぐり身体中に花粉を付けて移動するため、花の受粉を手伝う重要な昆虫のひとつですが、食べ方が強引なため、食事をした花はボロボロになってしまいます。園内にも多く生息していますので、食事の様子や食痕を観察してみてください。



Botanical Gallery



マツムシソウ

北海道~九州の山地の草原に生える越年草。秋の高原を彩る花。英名は特異な実の形からピンクッション(針さし)。



ツリフネソウ

北海道~九州の山野の湿地に生える1年草。名前の由来は細い花柄の先につり下がって咲く花の姿を、釣舟にたとえたことから。



キレンゲショウマ

本州(紀伊半島)~九州の深山の林内にまれに生える多年草。根元の根茎は木質になり頑丈。



シオン

本州(中国地方)~九州の日当たりの良い草原に生える多年草。草丈は人の目の高さくらいになる。



タカクマヒキオコシ

本州(関東地方以西の太平洋側)~九州の山地に生える多年草。名前の由来は産地の鹿児島県高隈山から。



アサマフウロ

本州(中部地方)の湿った草地に生える多年草。名前の由来は浅間高原周辺に多いことから。



タムラソウ「田村草」(キク科)

本州~九州の山地の草原などに生える多年草。名前の由来は不明だが、玉のようなつぼみがたくさん群がって咲くという意味の「玉群草」という説がある。

ご利用案内

通常営業 9:00~17:00(最終入園16:30)
 大人(中学生以上)700円 小人(小学生)400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)“仙石案内所前”下車、徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>

箱根湿生花園の 花だより

2018年10月1日 発行



アサマフウロ
「浅間風露」(フウロソウ科)
本州(中部地方)の湿った
草地に生える多年草。茎に
下向きの庄毛がある。花は
濃紅紫色。フウロソウの仲
間では、花が大きく色も濃
い。

箱根仙石原の朝晩は、秋らしく冷え込むようになり、台ヶ岳の仙石原すすき草原でも黄金色のススキが楽しめるようになってきました。園内もだいぶ秋らしくなり、植生復元区の湿原では、ウメバチソウの小さな花が咲いています。また、園内特設会場では、美しい秋の山野草を展示する「秋の山野草と木の実草の実展」を開催中です。開園時間を1時間延長して園内をライトアップする「ナイトパーク」は、10月からスタートします！



『秋の山野草と木の実草の実展』 9/24(月)～11/11(日)
ホトトギスやリンドウなど秋の野山を彩る可憐な植物を約80種800株展示します。売店ではダイモンジソウなど秋の山野草を販売しています。

『箱根湿生花園ナイトパーク』 10/1(月)～11/30(金) 16:30～18:00
上記期間は、園内をライトアップし、開園時間を1時間延長して営業します。美しくライトアップされた園内をご家族やカップルでお楽しみいただけます。16:30以降入園のお客様は、夜間特別料金500円(最終入園17:30)となります。



Pick Up ウメバチソウ 「梅鉢草」ユキノシタ科

ウメバチソウは、北海道～九州の山野の明るく湿った草原に生える多年草です。和名は、天満宮の御紋でもある梅鉢紋に花の形が似ることから名付けられました。細かく枝分かれている雄しべに見えるものは、花粉を持たない“飾り雄しべ”で、実際の雄しべは、中心に5本あり、1本ずつ順番に展開していきます(写真ではまだ1本も展開していない状態です)。

園内では植生復元区の木道沿いで多く見ることができ、複雑な花の構造を間近で観察してみてください。現在開催中の「秋の山野草と木の実草の実展」では、ウメバチソウの変種である「イズノシマウメバチソウ」や「ヤクシマウメバチソウ」も展示しています。こちらも是非ご覧ください。



マツムシソウ

「松虫草」(マツムシソウ科)
北海道～九州の山地の草原に生える越
年草。名前の由来は諸説あるが、秋、
マツムシが鳴くころに開花するからと
いわれている。花が咲き終わった後は、
特異な形の実も観察できる。



File 12 アカタテハ 鱗翅目 タテハチョウ科

今回は秋らしい色のチョウ、アカタテハをご紹介します。アカタテハは明るい草地を好むチョウで、タテハチョウの中でも比較的身近な種類です。分布は日本全土と広く、園内ではアザミ類やマツムシソウなどの花で、吸蜜している姿をよく見かけます。年に数回発生ピークがありますが、最後の羽化のピークが秋に重なるため、気温が下がり他のチョウが少なくなるこの時期にまるで紅葉したかのような綺麗な色の個体を観察することができます。驚くことに、この時期に生まれるアカタテハなどのタテハチョウの仲間は、成虫のまま冬を越して翌春に産卵します。越冬するためには冬を越すための十分な栄養を取らなければなりません。吸蜜をしていたら、邪魔しないでそっと見守ってあげてください。



Botanical Gallery



タニジャコウソウ
本州(関東地方以西)～九州の山地の谷間に生える多年草。ジャコウソウに似るが花冠は小さく、花柄が長いという特徴がある。



ホトトギス
北海道～九州の山地のやや湿ったところに生える多年草。名前の由来は、花の斑点を鳥のホトトギスの胸にある模様に見立てたことから。



シモバシラ
本州(関東地方以西)～九州の山地の木陰に生える多年草。名前の由来は、初冬に根もとから霜柱のような氷柱が立つことから。



ノコンギク
本州～九州の山野のいたるところに普通に見られる多年草。地下茎を伸ばしてふえる。野菊の代表種。



マアザミ
本州～九州の湿地に生える多年草。名前の由来は、食用になる本当のアザミということから。別名キセルアザミ。



ヤマトリカブト
本州(中部地方以北)の山地の林内や林縁などに生える多年草。有毒植物として有名。箱根にも自生する。



ススキ「薄・芒」(イネ科)

日本全土の山野の生える高さ1～2mの大型になる多年草。秋の七草のひとつ。植生復元区からは、仙石原すすき草原を眺めることができます。仙石すすき草原は「かながわの景勝50選」に選ばれています。

ご利用案内

通常営業 9:00～17:00(最終入園16:30)
大人(中学生以上)700円 小人(小学生)400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)“仙石案内所前”下車、徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>



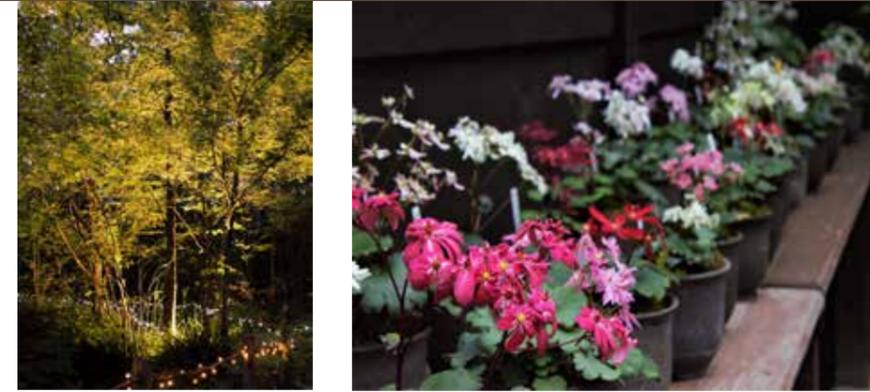
ウメバチソウ
「梅鉢草」(ユキノシタ科)

北海道～九州の山野の明るく湿った草原に生える多年草。名前の由来は、天満宮の御紋でもある梅鉢紋に花の形が似ることから。植生復元区ではウメバチソウの群生を観察することができます。

箱根湿生花園の 花だより

2018年10月15日 発行

10月中旬になり、日中でもときおり肌寒く感じるようになってきました。植生復元区ではヤマラッキョウやウメバチソウが群生し、秋の湿原を美しく染めています。木々を見ればコムラサキやイヌウメモドキなどの実が色づき、園内各所で見頃を迎えています。また、園内特設会場では、美しい秋の山野草を集めた「秋の山野草と木の実草の実展」や美しいライトアップを楽しめる「ナイトパーク」も開催中です。



『秋の山野草と木の実草の実展』 9/24(月)～11/11(日)
ホトトギスやリンドウなど秋の野山を彩る可憐な植物を約80種800株展示します。売店ではダイヤモンドソウなど秋の山野草を販売しています。

『箱根湿生花園ナイトパーク』 10/1(月)～11/30(金) 16:30～18:00
上記期間は、園内をライトアップし、開園時間を1時間延長して営業します。美しくライトアップされた園内をご家族やカップルでお楽しみいただけます。16:30以降入園のお客様は、夜間特別料金500円(最終入園17:30)となります。



イワシャジン
「岩沙参」(キキョウ科)

本州(中部地方東南部、関東地方西部)の山地の湿り気のある岩地に生える多年草。趣のある鐘形の花を咲かせる。ふつう花色は紫色だが、白花品もある。人気の高い秋の山野草のひとつ。



Pick Up ヤマラッキョウ 「山辣韭」ユリ科

ヤマラッキョウは本州(福島県以南)～沖縄の山地の草原に生える多年草です。10月頃、茎頂に紅紫色の小さな花を咲かせます。名前のとおりラッキョウの仲間、地下には細長い球根があり、薄皮に包まれています。葉のままではあまり臭いはしませんが、強く揉むとネギの仲間特有の臭いがします。ラッキョウと比べると、球根が小さいため、あまり食用には向きません。

箱根湿生花園では、園内各所の木道近くで見ることができますが、特に植生復元区では紅紫色の可愛い花が群生して咲いているため、おすすめです!



File 13 ホウジャクの仲間 鱗翅目 スズメガ科

園内を散策していると花から花へとハチドリのように素早く移動する奇妙な生物を見かけます。この生物の正体はホウジャクという昼行性の蛾の仲間です。ホウジャクの仲間は蛾の中でも飛行能力が非常に高く、鋭利な三角形の翅を発達した飛翔筋(翅を動かす筋肉)を使い1秒間に約60～70回羽ばたかせ、高速飛行やホバリングをします。この飛行技術によって花の前でホバリングしながら長いストローのような口を伸ばして効率よく花の蜜を吸うことができます。素早く飛び回り、横切る羽音は少し怖いですが毒もなく、刺すことは決していないので安心して観察してください。 ※ホバリング=空中で静止する飛び方



ご利用案内

通常営業 9:00～17:00(最終入園16:30)
大人(中学生以上)700円 小人(小学生)400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)“仙石案内所前”下車、徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Botanical Gallery



ダイヤモンドソウ
北海道～九州の山地の湿った岩上に生える多年草。名前の由来は、花が「大」という字に似ていることから。



リンドウ
本州～九州の山野に生える多年草。花は日光を浴びると開き、曇りの時は閉じている。根は漢方で健胃剤として利用される。



ノハラアザミ
本州(中部地方以北)の乾いた草地に生える多年草。根生葉は花期にも残る。総苞は粘らない。



イヌウメモドキ
本州～九州の湿地または湿った落葉広葉樹林内に生える落葉低木。ウメモドキと異なり、本種は全体に毛がないことが特徴。



サラシナショウマ
北海道～九州の山地の林内に生える多年草。名前の由来は、若芽をゆで、水でさらして食べたことから。



コムラサキ
本州～沖縄の山麓の湿地や湿った原野に生える落葉低木。園芸店でムラサキシキブと売られているもの多くは本種。



マツムシソウ 「松虫草」(マツムシソウ科)

北海道～九州の山地の草原に生える越年草。薄紫色の優しい色合いで、秋の高原を彩る。箱根にも自生する。英名は特異な実の形から、ピンクッション(針刺し)と呼ばれる。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>



イロハモミジ

「以呂波紅葉」(カエデ科)

本州(福島県以南)~九州の山地の湿り気のある斜面や沢沿いに生える落葉高木。名前の由来は、葉の裂片を「いろはにほへと」と数えたことから。

箱根湿生花園の花だより

2018年11月1日 発行

秋も深まり、イロハモミジやシロヤシオなどの紅葉が楽しめるようになってきました。ミソハギなどの草本類も真っ赤に色付き、とても綺麗です。また林の下ではリュウノウギクやリンドウの可憐な花が見頃を迎えています。

園内特設会場では、美しい秋の山野草を集めた「秋の山野草と木の実草の実展」や幻想的なライトアップを楽しめる「ナイトパーク」も開催中です。



『秋の山野草と木の実草の実展』 9/24(月)~11/11(日)
ホトトギスやリンドウなど秋の野山を彩る可憐な植物を約80種800株展示します。売店ではダイヤモンドソウなど秋の山野草を販売しています。

『箱根湿生花園ナイトパーク』 10/1(月)~11/30(金) 16:30~18:00
上記期間は、園内をライトアップし、開園時間を1時間延長して営業します。美しくライトアップされた園内をご家族やカップルでお楽しみいただけます。16:30以降に、御入園のお客様は、夜間特別料金500円(最終入園17:30)となります。



シロヤシオ

「白八汐」(ツツジ科)

本州(岩手県以南の太平洋側)、四国の山地の林内や岩場に生える落葉低木。葉は枝先に5個輪生する。高山のお花畑で真っ赤に色付いています。



Pick Up リュウノウギク 「竜脳菊」キク科

リュウノウギクは、本州(福島県・新潟県以西)~九州(宮崎県)の日当たりの良い山地に生える多年草です。秋の深まりとともに、清楚な白い花を咲かせる日本特産の野菊です。名前の由来は、茎や葉に「竜脳」という香木に似た香りがあることから名づけられました。葉は民間薬として利用され、すりつぶしたリュウノウギクの葉とショウガを混ぜたものは、肩こりや腰痛に効果があるそうです。

箱根湿生花園では、園内各所で観察することができます。リュウノウギクを見つけた際は、独特の香りもお楽しみください。

File 14 マユタテアカネ 蜻蛉目 トンボ科

だいぶ冷え込むようになる11月でも、晴れた日には小さなアカトンボが飛んでいます。このトンボはマユタテアカネという30~40mmほどの小型のトンボです。マユタテアカネは全国の水田や湿地に生息するアカトンボの仲間で、他のトンボに比べ耐寒性が強く11月ごろまで成虫を見ることができます。正面から顔を見ると黒い紋が二つ見え、この紋が眉毛のように見えることからこの名が付けました。この時期になると昼間も気温が低いため、日中、体温を少しでも上げようと石や木道の上で日光浴をしています。静止していることが多いので、特徴的な顔に注目して観察してみたいかでしょうか。



Botanical Gallery



リンドウ
本州~九州の山野に生える多年草。名前の由来は根を乾燥させたものを薬用にし、これを漢方では竜胆と呼ぶことから。



ヤマラッキョウ
本州(福島県以南)~沖縄の山地の草原に生える多年草。莖頂に紅紫色の小さな花を多数つける。



マユミ
北海道~九州の丘陵から山地の林縁に生える落葉小高木。名前の由来は、枝がよくしなうため弓を作ったことから。



イソギク
本州(千葉県~静岡県、伊豆諸島)の海岸の崖などに生える多年草。菊人形の着物によく使われる。



オヤマボクチ
北海道~本州(青森県~岐阜県)、四国の日当たりのよい山野に生える多年草。筒状花は暗紫色で、頭花は下向きに咲く。



ノブドウ
北海道~沖縄の山野に生える落葉つる性植物。2分岐した巻きひげで、他物にからみつく。実は食べられない。



ススキ草原区の様子

現在、ススキ草原区ではミソハギなどの草紅葉が見頃を迎えています。鮮やかな紅葉をお楽しみください。

ご利用案内

通常営業 9:00~17:00(最終入園16:30)
大人(中学生以上)700円 小人(小学生)400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)“仙石案内所前”下車、徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>



マユミ

「真弓」(ニシキギ科)

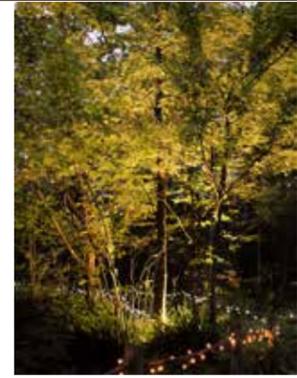
北海道～九州の丘陵から山地の林縁に生える落葉小高木。果実は熟すと4裂し、種子が出る。名前の由来は、枝がよくしなうため、弓を作ったことから。

箱根湿生花園の花だより

2018年11月15日 発行

今年度の開園期間は残り2週間となりました。園内では、リンドウやイソギクなどが小さな花を咲かせています。木々を見ると、マユミやムラサキシキブなどのかわいらしい木の実が晩秋を彩っています。

来月から当園は冬季休園となり、花だよりもしばらくお休みです。早春の開園時期には、ミズバショウやフクジュソウなど可憐な花が咲き始めます。どうぞお楽しみに！



『森のカフェ HAKONE オープン』

園内に「森のカフェ HAKONE」がオープンいたしました！サンドイッチなどの軽食やドリンク、箱根湿生花園で収穫したイチゴ「箱根りりか」を使ったデザートなど取り揃えております。お気軽にお立ち寄りください。営業時間 9:00～16:00 定休日 火・水

『箱根湿生花園ナイトパーク』 10/1(月)～11/30(金) 16:30～18:00

上記期間は、園内をライトアップし、開園時間を1時間延長して営業します。美しくライトアップされた園内をご家族やカップルでお楽しみいただけます。16:30以降に、御入園のお客様は、夜間特別料金500円(最終入園17:30)となります。



リンドウ

「竜胆」(リンドウ科)

本州～九州の山野に生える多年草。花は日が当たったときだけ開き、夜や雨の時は閉じてしまう。根を乾燥させたものを漢方では竜胆(りゅうたん)と呼び薬用にする。



Pick Up ノジギク 「野路菊」キク科

ノジギクは本州(瀬戸内海沿岸)～九州の海岸の岩場に生える多年草です。西日本の海岸で比較的広く分布する野菊で、晩秋に清楚な白い花を咲かせます。1884年に植物学者、牧野富太郎が仁淀川で発見し、命名しました。強健な性質で、花つきがよいため庭に植えられることもあります。ノジギクの自生地では海岸の埋め立てなどがさかんに行なわれ、数が激減してしまったそうです。

箱根湿生花園では、高山のお花畑区で観察することができます。朝晩の冷え込みにも負けず、元気いっぱい咲いているノジギクをぜひ見に来てください。



File 15

アブラハヤ

コイ目 コイ科

園内の水路やママガヤ草原区の池に小さな魚が泳いでいます。メダカのように見えるかもしれませんがこれはアブラハヤの稚魚です。アブラハヤは主に河川の上流から中流域に生息する雑食性の淡水魚で、大きくなると体長は15cmほどになります。和名は体表の粘液が他の川魚より多く、触るとヌルヌルするので、油を塗ったハヤという意味から名付けられたといわれています。アブラハヤはどの河川でも生息していた種ですが、都市開発などで生息できる小規模な河川が減少してしまい、神奈川県レッドデータブックでは準絶滅危惧種に指定されています。



ご利用案内

通常営業 9:00～17:00(最終入園16:30)
大人(中学生以上)700円 小人(小学生)400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)“仙石案内所前”下車、徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Botanical Gallery



イソギク

本州(千葉県～静岡県、伊豆諸島)の海岸の崖などに生える多年草。菊人形の着物によく使われる。



イヌウメモドキ

本州～九州の湿地または湿った落葉広葉樹林に生える落葉低木。ウメモドキと異なり、本種は全体に毛がないことが特徴。



ガマズミ

北海道(西南部)～九州の丘陵から山地に生える落葉低木。果実は赤く、食べられる。日本固有種。



シオデ

北海道～九州の山野に生える多年草。若芽は山菜として食べられ、果実は黒く熟す。雌雄異株。



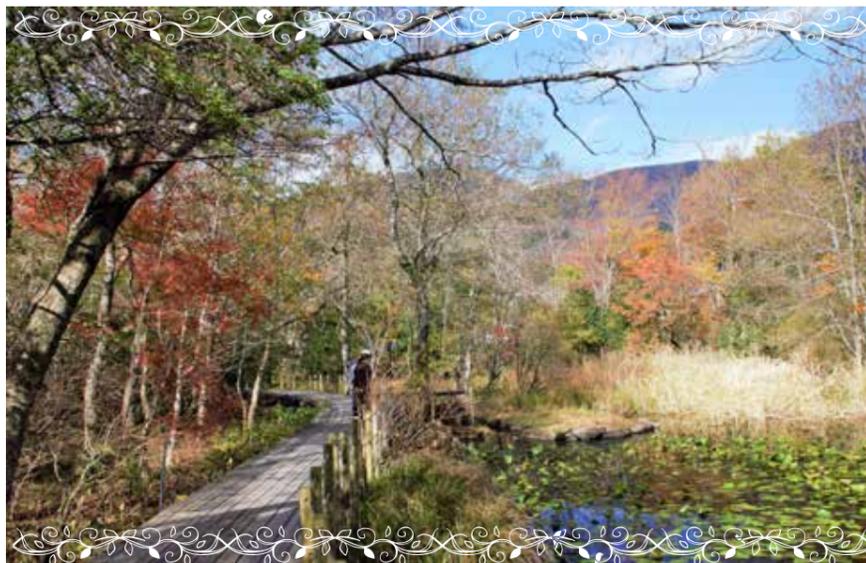
シデコブシ(冬芽)

本州(東海地方の伊勢湾周辺地域)の湿地やその周辺に生える落葉小高木。冬芽は軟毛におおわれる。



ムラサキシキブ

北海道～沖縄の山野の林内や林縁の生える落葉低木。名前の由来は、紫色の果実を紫式部にたとえたことから。



湿生林区の様子(2018年11月14日現在)

木々の葉も落ち始め、園内もすっかり晩秋の雰囲気となりました。木道を歩きながら、移り変わる季節を感じてみてください。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>